

# 町史編さん室だより

## 農家の暮らし(田植え)

田植えといえば、梅雨どきの6月の農作業というイメージがあります。実際には、大口町内では、早いところでは5月の連休を過ぎた頃から田植えが始まり、6月中頃には全ての地区で終わっているようです。

しかし、昭和30年代までは田植えを7月上旬に行っている地区もありました。

大口を含む尾張北部の田では、二毛作で麦を作っていました。麦の刈り入れは6月上旬、そして田に水が入り始めるのが6月下旬でしたので、麦を収穫したら大急ぎで畝をこわし、肥を振って田をならさなければなりません。

麦を作ったあとの田の土は、相当硬くなっていったそうです。この硬くなった麦の畝を壊して起こすことから、「麦田(こわし)」とか「麦田起(こし)」と呼ばれていました。

この重労働に活躍したのが、「ハネクリピッチュウ」と呼ばれるフォーク状の鋤



▲ハネクリピッチュウ (麦田起こし)



▲箱膳

町史編さん室  
95-3464

### 問合せ先

昭和30年代までは、小中学校でも「田植え休み」があり、一家総出で農作業に従事していたことがうかがえます。こうした農繁期には、一日に4回から5回食事を取ったようです。また、食事台は、個々に箱膳を使い、その中に食器を入れていました。

に下駄がついたもので、足の力で土に踏み込み、手でひねって畝を壊します。

地区ごとに水が入る時期が異なるので、役員さんの「フレ」により、各農家は田植えの準備をし、ご近所と助け合い、親戚にも頼んで田植えをおこないました。

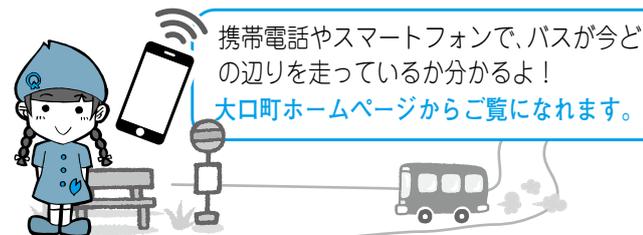
昭和30年代までは、小中学校でも「田植え休み」があり、一家総出で農作業に従事していたことがうかがえます。こうした農繁期には、一日に4回から5回食事を取ったようです。

シリーズ 89 大口町コミュニティバス について をご紹介します!

## バスロケーションシステム

### 「バスロケーションシステム」とは

ご利用になるバスの現在地や到着時間などの運行状況を携帯電話、スマートフォン、パソコンなどで、時間や場所を選ばずにリアルタイムに見ることができるサービスです。 ※通信料は利用者負担になります。



### 携帯電話・スマートフォン画面



バスロケーションシステムはQRコードを読み込んでね!



▲トップ画面



▲運行情報詳細



▲MAP画面

コミュニティバスサポート隊と一緒に活動して下さるメンバーを随時募集しています。今後もいろいろ企画していきますので、興味のある方は、ぜひご連絡ください。

回数券・1日乗車券 11枚綴り販売場所

バス車内・喫茶ほほえみ・憩いの四季・御桜乃里・一期一会荘・さくら総合病院・大口町役場会計室

1乗車線 100円 小学生以下無料

一日乗車券 200円 車内にて販売

問合せ先 NPO法人まちなっと大口 月曜日から土曜日(祝日除く) 午前9時から午後5時 (正午から午後1時を除く) ☎22-6642